

ている。一方、高齢者は疾病リスクが高いことを反映し、保健医療支出額は世帯平均並みである。

母子世帯について見ると、収入は収入階級1分位世帯より多い。一方、支出額はいずれの支出項目においても収入階級1分位世帯の支出額よりも少なかった<sup>83</sup>。

最後に、母子世帯のうち若年母子世帯に限って見ると、収入は収入階級1分位世帯並みであるが、支出については、食費支出額は世帯平均の半額、収入階級1分位世帯の3分の2程度にとどまっており、旅行・宿泊にはほとんど支出していない。

### ●社会的に排除されやすい状況にある若年母子世帯と所得水準の低い高齢者世帯

以上の結果をまとめると、第一に、若年母子世帯は、食料支出額が世帯平均の半分程度、収入階級1分位世帯の3分の2程度にとどまっており、人間の「基本ニーズ」の欠如の可能性もある。また、旅行・宿泊にはほとんど支出していない。第二に、高齢者無職世帯は、年金に依存しているため収入額は世帯平均より少ないが、消費支出額は世帯平均と比較して多い。一方、低所得・高齢者無職世帯についてみると、収入は収入階級1分位と同程度の水準にあり、消費額も食料支出額、旅行・宿泊支出額とも低い水準にある。このように、若年母子世帯と低所得・高齢者無職世帯は「基本ニーズ」、「レジャーと社会参加」の欠如の可能性があり、社会的に排除されやすい状況にあると考えられる。

## (3) 所得再分配機能

### ●所得再分配機能の現状

近年では、厳しい雇用環境等から、中間層から低所得層への転落も見られる上、防貧機能から抜け落ち、生活保護を受給する世帯が増加している。この点で、社会保障制度の所得再分配機能が重要度を増している。所得再分配機能は、高所得者から低所得者への所得移転を通じ、社会全体の貧富の差を縮小させることで、社会全体の厚生の上昇を狙うものである。

まず、厚生労働省「所得再分配調査」により、我が国における所得再分配前後のジニ係数の動向を見ると、高齢化等を背景に、再分配前の所得の不平等度は年々拡大傾向にある。しかし、この不平等度は租税・社会保障による所得再分配により改善しており、その改善度も年々拡大する傾向にある。さらに、所得の不平等度の改善度を、社会保障を通じた改善度と租税負担を通じた改善度に分けて見る（第3-3-7図）。

社会保障による改善度は、前述のように高齢化にともない社会保障の比重が上昇している状況に対応して、拡大している。

他方、租税負担による改善度は横ばいで推移している。特に、我が国の所得税については、

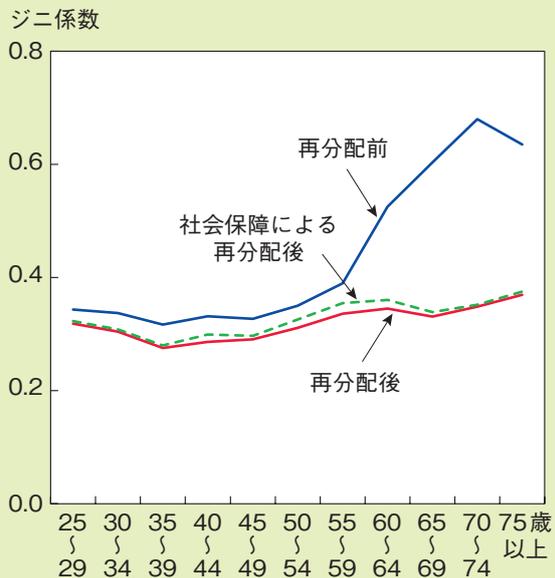
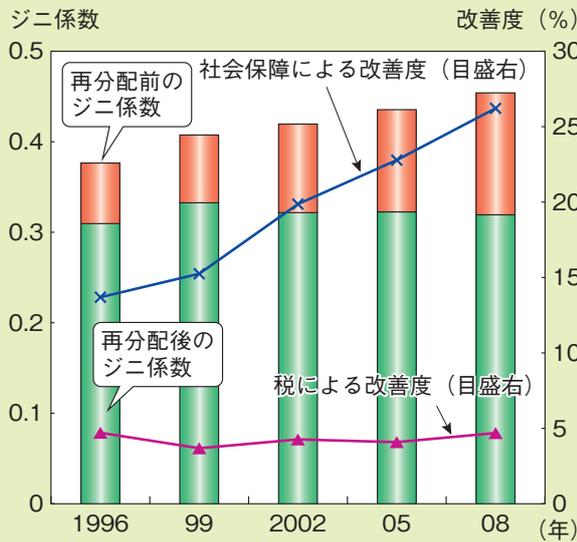
注 (83) なお、母子世帯の医療保険支出額については、いずれも0.1万円程度と少額であるが、母子世帯については、国や地方公共団体から保健医療に係る補助を受けている点に留意が必要である。

第3-3-7図 社会保障・税を通じた所得再分配効果

社会保障による所得再分配効果は年々上昇

(1) 所得再分配前後のジニ係数の推移

(2) 年齢階級別の所得再分配前後のジニ係数 (2008年)



(備考) 1. 厚生労働省「所得再分配調査」により作成。等価所得のジニ係数。  
 2. ジニ係数とは、所得などの分布の不平等度を示す指標であり、0～1までの値を取る。0に近いほど分布が平等であり、1に近いほど不平等度が高い。  
 3. (2)の社会保障は、医療、介護、保育の現物給付を除く。

中堅所得者層の負担累増感を解消する等の観点から、1980年代後半以降、税率構造の大幅な累進緩和を実施してきた。他方で、近年の給与所得者の所得構造の実態を見ると、1997年以降、構造変化が認められる。すなわち、前述のとおり、平均的な所得水準が下落するとともに、その分布についても全体として下方へシフトしている上、格差が拡大する傾向が見られる。このように所得構造が変化する一方で、税率構造の累進性が低下したままであることにより、所得税による所得再分配機能は、近年、低下している。

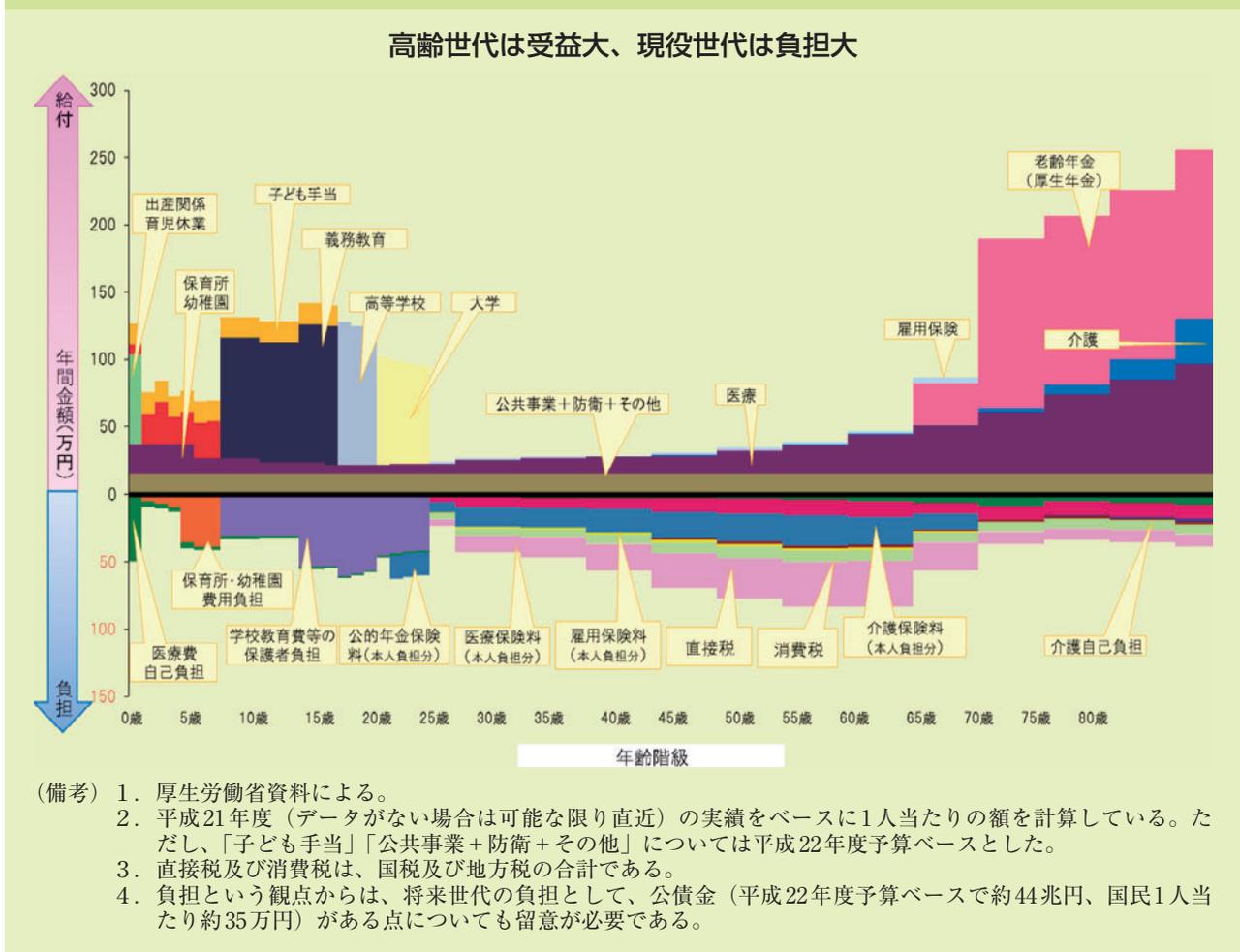
このように社会保障制度の所得再分配機能は、ジニ係数という切り口で見れば、年々効果を高めてきている。また、年齢階級別のジニ係数を所得再分配前後(2008年)で見ても、高齢世代を中心に社会保障(医療、介護、保育の現物給付を除く)による再分配効果が高いことが確認できる(第3-3-7図(2))。

●現役世代と高齢世代の受益と負担の格差は大きい

次に、2009年の年齢階級ごとに一人当たりの受益と負担の関係を見る(第3-3-8図)。

受益については、警察・消防や公衆衛生などの公共サービスや、道路サービス等の社会資本の提供するサービスは、生涯を通じて受益が及ぶものと捉えられる。また、公的年金の給付は、主として高齢者が受け、医療は年齢ごとの受診度合に応じて受益しているものと考えられる。

## 第3-3-8図 個人のライフサイクルにおける受益と負担



負担については、税は社会共通の費用を賄うためのものであり、社会保険料は医療保険などの社会保障という特定給付を受けるために行う負担である。年金保険料は、保険料負担時点では給付を受けていなくても、老後の年金給付を前提に行う負担である。

このため、現在の社会保障制度は、負担は現役世代中心、受益は高齢世代中心という構造となっている。

こうした現役世代と高齢世代の受益と負担の格差は、高齢になるほど、所得稼得能力が低下する一方で、疾病・要介護状態等に陥るリスクが高まることから、公的部門を通じた受益と負担の関係が高齢世代において受益超となることは当然である<sup>84</sup>。

しかしながら、人口構成の変化が一層進んでいく社会（ピラミッド型の人口構成が崩れる社会）にあっては、社会保障給付費が増加する一方、税負担や社会保険料負担が減少することから、その給付超過分は現役世代と将来世代の負担となる。実際、高齢世代（65歳以上）1人当たりの現役世代（20～64歳）の支え手は、①出生率は2005年の1.26で底を打ったものの、

注 (84) バー（2007）では、保険を提供すること、個人のライフサイクル内で再分配する装置を提供することを「貯金箱機能」と呼んでいる。

2010年は1.39と低水準で推移している上、②平均寿命は1990年の78.84歳から2010年の80.10歳まで上昇傾向にあることから、1965年に9.1人であったが、2012年には2.4人に、2050年には1.2人で支えることになることが予測されている。

そのため、給付は高齢世代中心、負担は現役世代中心という現在の社会保障制度を見直していく必要がある。

### ●生涯を通じた受益と負担<生涯純負担額>は、現役・将来世代に不利

社会保障制度の見直しに当たっては、その過程において、世代間公平に適切な配慮が払われるようにするために、政府は国民に対して、世代間の受益と負担の関係についての正確でわかりやすい情報を伝えることが求められる。その方法として、現行制度を前提とした場合の各世代の生涯純負担額<sup>85</sup>(政府を通じた個人の生涯にわたる受益と負担を一時金換算し、<負担-受益>でみたもの)を可視化することが重要である。さらに、政策変更が世代間の生涯純負担額に及ぼす影響の把握も有用であろう。

そのための一つの手段として、「世代会計」が考えられる。世代会計は、高齢世代、現役世代、将来世代が、社会保障、その他の行政サービスを通じて政府からどれだけ受益し、どれだけ負担することになるかを示すとともに、政策変更が各世代の生涯純負担額に及ぼす影響を分析する手法である。

世代会計の手法を用いた、現行の社会保障制度について、世代毎に過去から将来にかけての生涯を通じた受益と負担の関係(生涯純負担額)についての分析によれば、一般的に、世代間で格差が生じているとされている。さらに、高齢世代では受益超である一方、現役世代と将来世代は負担超となる、との結論が多い。

このように高齢世代に対して現役世代・将来世代が不利となることについては、社会保障制度をそれまで私的に行われてきた親孝行(老親の扶養)を「社会化する仕組み」であるとの見方や、現役世代は、これまで残された資本ストックその他のおかげで、同時期の引退世代よりも高い実質賃金を得るといって受益しているなどの視点<sup>86</sup>からは、一定程度正当化されよう。また、年金について言うと、生活水準が持続的に上昇する経済においては、現役時代に拠出した分だけしか高齢者になってから受益できないとすると、その時点での現役世代との格差が大きくなってしまうことから、世代間の所得移転は一定程度正当化されよう。

しかし、高齢化がより一層進み、経済が低調に推移する中で、年金制度などの社会保障制度の持続可能性に関心が高まってきた。例えば、従前の年金制度の下では、現役世代の平均的な収入に対する標準的な年金額比率である(受給者一人当たりの受給額を各年の平均賃金で割っ

注 (85) このように、世代ごとの受益と負担の関係を割引現在価値換算額で示す示し方については、その額だけをもって世代間の格差を論ずることについては問題があるとの指摘もある。特に、年金制度の中だけで年金給付と保険料負担の関係を比較した一面的な数値のみで評価することについては計算技術的な点についても問題点が指摘されており、第12回社会保障審議会年金部会(平成24年4月24日)で議論されていることから留意が必要である。

(86) 「現役世代は高齢者世代から遺産を相続することが期待される」、「経済状況の恵まれなかった世代には低い生涯純負担率が望ましい」等。